

ダイバーシティ推進室が行く！

－理工学研究科情報工学専攻 原口研究室編－



令和5年度女性エンパワーメント支援制度を利用された、理工学研究科原口春海先生の研究室に伺い、原口先生と一緒にルーマニアの国際会議で発表をおこなった博士前期課程学生、遠藤萌さんに茨城大学工学部に進学しようと思ったきっかけや研究についてインタビューさせていただきました。

また、後半では、指導教員の原口先生にもお話を伺っています。

取材に応じてくださった学生

遠藤 萌さん

理工学研究科博士前期過程 情報工学専攻
修士1年生（インタビュー当時）

*インタビューは令和6年3月に実施しました
聞き手；ダイバーシティ推進室員（會田・渡邊・網代）

研究室ではどのような研究をされていますか。

研究室では、**製造業の課題を数理モデル化し、最適化して課題を解決する研究**をしています。その中で、私は組み立て作業者の成長や育成を目的とした作業者の配置手法の提案について担当しています。

具体的には、研究室内に仮設の工場空間を作成して、研究室で組み立てLEGOブロックで作業時間を収集する検証実験をして、集めたデータから課題分析・比較検証などを行っています。



茨城大学工学部に進学しようと思ったきっかけを教えてください。

高校生の時に**高大連携事業**の一環で、ある大学の先生の授業を受けた際「**数理最適化**」という考え方で課題を解決するということを知り、この考え方に興味を持ちました。

茨城大学の情報工学科でも学べるということを知り、進学することを決めました。あとは、実家から通えるという点もありましたね。

茨城大学には、高校生の時にも研究室見学で何度か訪れたことがあったので、キャンパスの建物や雰囲気なども分かっていた、すんなり馴染めました。



「研究が楽しい」「やりがいがある」と 思う時はどのような時ですか。

私がしている研究は、実現場寄りな感じがするので、**そのまま
実世界に生かせそう**だという思いが「研究を頑張ろう」と思
うモチベーションになっています。



ルーマニアでの学会発表の様子

研究室の雰囲気や指導教員の先生に ついて教えてください。

研究室の雰囲気は、**先輩方がフレンドリーで優しく**て和やかです。

指導教員の**原口先生は頑張ろうとする学生に寄り添って**くれる先生で、女性同士なことも
あって、何でも話しやすいと感じています。

昨年、ルーマニアで発表をする機会があったのですが、英語の原稿作成等は原口先生や国際会議
の経験のある先輩にアドバイスをいただきました。海外での発表は緊張しましたし、不安もありま
したが、**先輩方も機会があれば積極的に海外での発表に行っている**ので、そこまで特別な
こととは思わず参加できました。行って**とてもいい経験だった**と思うので、もし今後行こ
うか悩んでいる後輩がいたら、ぜひ行った方がいいよ、と伝えたいと思います。



—原口先生や研究室の先輩のサポートいただきつつ研究を頑張っている、
ということが伝わってきますね。
授業や研究などで大変だな、これは苦勞したなと思うことはありましたか。

1年生の時は**授業についていくのが大変**な時もありましたが、
同じ学科の友人に聞きながら何とかクリアしていくうちに、ついて
いけるようになりました。プログラミングなども大学に入るまでパ
ソコン自体あまり触ったことがなかったので、最初は戸惑いました。
英語の勉強もTOEICなどはあまり頑張れていなかったのですが、
国際会議での英語の発表をすることになって、原稿はとにかく暗
記して、質疑応答などは、経験のある先輩方が想定問答を一緒に
考えてくれて乗り切ることができました。

自分の中ではあまり特別なこともしていなくて、**その時その時の
授業や課題を頑張**ってやっているうちに**なんとかできるよ
うになっていった**という感じです。



研究室で検証実験中の様子

—一度も「普通にやっただけです」と言っていた遠藤さん。
友人同士でも研究室でも助け合い、努力することを「普通」と言えるところに、
とても素敵な環境で研究しているのだなと感じました。



ダイバーシティ推進室では、女子小中学生に理系に興味を持ってもらうための取組みを行っています。遠藤さんはどのような取組みがあると良いと思いますか。

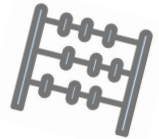


検証実験で使用したLEGOブロック①

私自身は小さい頃からソロバンを習っていて、**ソロバンが好き・得意**と**思ったことをきっかけに、算数や数学の勉強も好き**になり、理系に進学することに繋がったと思います。

原口研究室では、毎年日立シビックセンターで行われる**小中学生向けの科学のイベント「青少年のための科学の祭典」**に出展しています。様々な道の候補がある中で、どのような道を選ぶと一番短い時間や距離でゴール出来るか、というプログラムを体験してもらった際には、小中学生でも手計算で何個か計算してくれて、楽しいと言ってもらえました。

—「難しいことではなく、簡単で楽しい経験をしたら良いのではないか」ということですね。



そうですね、複雑な道になれば、実際に車のナビ等で使用されている技術なので、こういう所で

使用されている考え方だと伝えられたら、**もっと身近に感じてわかってもらえる**と思っています。

初めて触れた時はどんなことなのかわからなくても、**後からこういうことだったんだ、とわかると嬉しい**と思います。

工学部のイメージはどう感じますか。

文系の友人からは、情報工学というと、「**眼鏡かけて猫背でパソコンしている**」イメージが強いと聞いたことがあります。そういう部分もあるかもしれないけれど、プログラミングでゲームを作ったり色々なものを動かせたり**情報工学で「すごい」とか「かっこいい」とか思ってもらえることもある**と思います。

—情報工学のすごい！かっこいい！！というイメージをもっと伝えていきたいですね。

最後に、遠藤さんがホツとする瞬間を教えてください。



検証実験で使用したLEGOブロック②

同じ学科の女子と仲がいいので、ご飯を食べに行ったり車でショッピングに行ったりして過ごしている時が楽しいです。

女子が少ない分結託しているというか、**仲がいい**と思います。平日も休みの日も一緒に過ごしていますね。

研究科も研究室も、**女性がかなり少ない環境ではあります**が、**そのことで特に困ったり嫌な思いをしたことはありません。**



—お話を聞かせていただき、ありがとうございました。工学のすごさ、かっこよさをどう伝えていか、引き続き私たちも考えてまいります。



遠藤さんにインタビューさせていただいた際にご都合でお話を伺えなかった指導教員の理工学研究科原口春海先生にも、書面インタビューというかたちでお話をお伺いしたいと思います。

遠藤さんから、和やかな雰囲気の研究室、と伺いました。 原口先生が研究室運営の中で大切にしていることがありましたら、 教えてください。

特別なことはしていませんが、自分の研究だけでなく研究室内の他のメンバーの研究にも興味を持つようには言っています。原口研究室は人数が少ない割にひとりひとりの研究テーマが異なりますので、ともすれば孤独な闘いになりがちです。そこで毎週の進捗報告では必ず学生同士で質問や意見を出すようにしています。最初は私が声かけをして行っていましたが今は学生たちが自主的に発言するようになり、プログラミングや資料まとめを協力する体制も出来てきました。それが研究室の良い雰囲気を作っているのかもしれない。

ルーマニアの国際会議に同行されていたか。

遠藤さんは今回が初めての研究発表でかつ英語での報告でした。最初の発表練習の時は原稿を手にとって確認しながらでしたが、本番までに必ず全て暗記するように指示したところ当日は原稿無しで堂々と発表し、質疑応答にも落ち着いて回答出来て大変頼もしく感じました。発表以外でもバンケットで他の参加者の方々と談笑したり工場見学に参加したりと国際会議を楽しんでくれたようです。終始英語のみですから本人も全て理解出来たわけではないと言っていたのですが、英語が苦手だからとしり込みすることなく、自分が理解できる範囲で積極的に周囲とコミュニケーションを取り新しい知識を吸収しようと言う姿に私の方が学ぶことが多かったかもしれません。

ダイバーシティ推進室へのご要望がありましたら、 教えてください。

この度はご採択下さりありがとうございました。本支援のおかげで貴重な機会を得られただけでなく次の研究にもつながる成果を出すことが出来ました。申請にあたり推進室のスタッフの方に色々相談させて頂き、それだけでも十分に価値があると感じました。推進室と学生や教員がもっと気楽に繋がれる方法があればと思います。

一原口先生、ありがとうございました。
気楽ににご相談やお話しただけのよう、より
広がりのある活動をしてまいりたいと思います。

